



最終回 独立から50年、 アフリカは自立した大陸へ 紛争と食糧問題の解決へむけて



宍戸健一
独立行政法人国際協力機構
アフリカ部 参事役

アフリカは高い成長を維持している一方、アフリカの角と言われる地域(ソマリア、エチオピア、ケニアなど)の干ばつや南部スーダンの分離独立など、さまざまな問題を抱えている。担当しているJICAの宍戸健一さんに現状について聞いた。

——アフリカの角では、干ばつによる飢饉が深刻です。
宍戸 3日前までケニア北部にいました。確かに昨年と今年と雨は少なく、60年に一度の干ばつと言われていますが、ケニア北部は1984年の大干ばつに比べるとまだ雨量が少なくないそうです。ソマリアで被害が大きくなったのは、雨の少ない地域ですが、治安状況が問題です。WFP(世界食糧計画)の食糧援助も十分に行き渡らず、被害を大きくしています。2011年8月上旬、UNOCHAという国連の人道支援組織が作った地図では、ソマリアでは370万人が食糧支援を必要とし、南部のモガディシュ付近の被害が深刻です。ケニア、エチオピアには大量の難民が流入しています。

エチオピアのソマリア国境のドロアドキャンプで話を聞きました。ここには12万人以上の難民が集まってき



ドロアドキャンプの子どもたち 写真提供: JICA

ています。食糧不足で栄養状態が悪くなると、真っ先に病気になるのは子どものため、助けを求めて難民キャンプにやってくる。父親がソマリア祖国に残り、母親と子どもだけです。子どもだけで10日間も歩いて難民キャンプにやって来る家族も多いと聞きました。ドロアドの場合は、キャンプの80%が子どもでした。父親が来ている家族に「雨が降ったら、来年は祖国で農業をしますか」と聞くと、「雨が降っても、ソマリアに平和が来るまで戻りたくない」という答えでした。

——治安回復の見通しは。

宍戸 アルシャバブというイスラム過激派の反政府勢力は、一時期よりは衰えを見せていますが、ソマリア南部のまだかなりの部分を占領しており、隣国ケニアの国境付近ではアルシャバブによる誘拐事件も発生しています。ソマリアの反政府勢力を支援し、混乱を招くような動きをする存在もあります。

20年近い内戦。長らく無政府状態で、教育も仕事もないため、武器を持つという悪循環が起こっています。海賊しかビジネスのないような国で、学校を建て、先生の教育をして、教育を広めることができるでしょうか。解決には外部からの支援が必要です。しかし、今、ソマリアでは空港から街中に行くにも、何台も護衛の車で囲まないと安全に走ることができないと言われ、国際機関の活動もかなり制限されているので、状況はアフガニスタンより厳しいですね。

——一方、2011年7月、南スーダンが住民投票で、アフリカ54番目の国として独立しました。

宍戸 スーダン南部の人たちは長い間、自分たちをsecond class citizenと言ってきました。古くは奴隷質



易でアラブ人によってヨーロッパに連れて行かれ、イギリスとエジプトの共同統治による植民地時代は、学校や病院なども作られず開発から取り残されてきました。1956年のスーダン独立を控え、アラブ人中心の政治体制に南部の一部の人たちが蜂起して、第一次内戦が勃発しました。一時期和平が結ばれた時期もありましたが、スーダン政府がイスラム法をイスラム教徒でない南部の人たちにも適用したことから、人々の不満は爆発し、第二次内戦に突入しました。和平協定に基づき、南部の人たちが自分たちの意思で独立を選択し、自分たちの国家を建設できたことは悲願の達成と言えます。

独立してから4カ月半。アビエイ地区の帰属問題（住民投票が未実施）、未確定な国境線、南部で産出される石油のパイプライン使用料（パイプラインは北部を通過）の問題、北部に残る南部系の人たち（特に軍）の取り扱いなど、まだまだ多くの問題があります。局所的には衝突が起きており、民族が複雑に入り組んでいる国を二分することの難しさを感じます。

援助より投資を求めるアフリカ諸国

——アフリカではミレニアム開発目標の達成率も低く、貧しいイメージが先行しがちです。

宍戸 1960年にアフリカ諸国の多くが独立し、人間で言えば50歳。長い間、必要最低限の人間の権利を保障するような援助を受けるだけの状態が続きました。1990年代から中国の進出もあり、多くの国が6%や10%の経済成長を遂げるようになってきました。

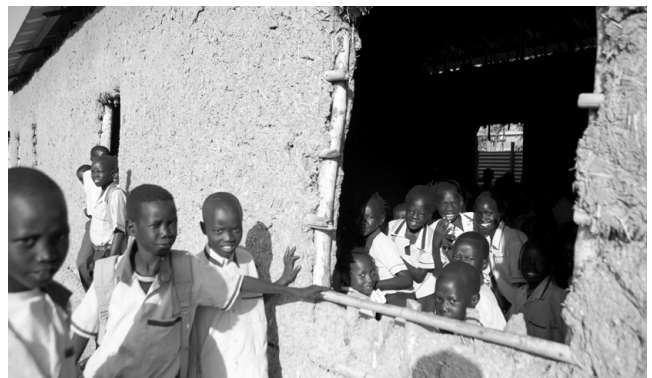
日本はTICADというアフリカの開発会議を5年ごとに行っています。「経済成長の加速化」が取り組みの柱の一つになっています。国が自立して、自分たちの問題に自分たち自身で取り組んでいくためには、経済成長が不可欠です。アフリカの多くの指導者も、いつまでも援助を受けるのではなく、自国のポテンシャルを生かし、成長する戦略が必要だと言い出してきました。

国によっては、豊富な資源を自国の開発にうまく利用できなかった反省もあると思います。50年後、100年後に、アフリカの人たちも世界と肩を並べたいという気持ちは強まっています。そうした夢や希望が、アフリカの中にも成功する国や高層ビルの建つ都市が増え、だんだん現実味をもってきたのではないのでしょうか。

——今回の飢饉を教訓として、アフリカの食糧問題は。
宍戸 日本は人口が減っていますが、40年後には世界の人口は百億人に達すると言われています。土地と水の制約により、農業生産の余力は限られています。アフリカの多くの地域は乾燥した土地が多く、日本のような高い生産力はないのですが、可能なものから取り組んでいく必要があります。JICAではアフリカでの稲作振興プログラム「CARDイニシアティブ」により、10年間でアフリカの稲作の生産量の倍増を目指した取り組みを行っています。米は他の穀物に比べて、栄養のバランスもよく、必要なアミノ酸も含まれ、面積あたり肥料をそれほど使わなくてもできるなど、人口の涵養力が高いと言われています。稲作の推進がアフリカの食糧問題の解決に貢献すると考えています。

干ばつ被害というと、砂漠に近い、トゲトゲの草しか生えないようなところで家畜を飼っている人たちへ水を配るような干ばつ対策もありますが、一方で農業生産ができる場所で不作になると穀物の値段が上がります。やはり、食糧の増産・安定供給も干ばつ対策として大切なテーマだと思います。

アフリカの何十年後を語るためには、先ほどの「経済成長の加速化」のためのインフラ（道路、水、電力など）も大切ですが、紛争の元にもなりかねない住民間の不均衡を軽減するために、「格差是正のための社会サービスの充実」も重要で、多くの国は、当面はこれらのバランス良い組み合わせで支援していく必要があると思います。（聞き手・近藤）



上)ウガンダ ネリカ米の栽培 下)南スーダンの学校 写真提供：JICA